Vol. 103
2024年 冬号

公益財団法人
京都府国際センター
Kyoto Prefectural International Center

NEWS

京都府内CIR(国際交流員)ネットワーク会議にて

目次

特集 能登半島地震の経験から学ぶ災害時の外国人支援について
～いざというときに助け合えるために～（研修報告）…P1～2
■ 第1回 外国人住民 生活相談員 意見交換会　報告…P2
■ 研修会報告：所属のない外国につながりをもつ子どもの学びの場と夜間中学校の役割 / CIRの紹介…P3
■ JICA京都デスクの取り組み / センターからのお知らせ…P4

特集

能登半島地震の経験から学ぶ災害時の外国人支援について
～いざというときに助け合えるために～

研修会報告（令和６年10月4日）

令和６年元日に発生した能登半島地震は、地理的な問題や厳しい天候等もあり、支援活動が非常に困難な震災であったと言われています。特に避難情報や支援情報等にたどり着きにくい外国人住民にとっては、より不安な避難生活を余儀なくされたと推測されます。

そのような状況下、現地で外国人住民への支援活動に従事されたお二方を講師に招き、支援の状況や今後に向けた課題等について話し合う研修会を開催しました。

まず、七尾市国際交流協会の大星三千代さんからは、「震災前から、外国人住民とは防災訓練や文化交流を通してつながりがあった。個別に電話をするとみんな大丈夫だと答えるが、実際に会いに行くと困っていた。行政が発信する多言語の情報まで得ようとする人は少なく、情報が届いていなかった。結局、日本語教室など普段のつながりが支援に役立った。」との報告がありました。

次に、様々な災害現場で支援経験のある国際NGO、難民を助ける会（AAR Japan）の櫻井佑樹さんからは、「現地に入って現地の人の情報から外国人支援に至り、七尾市国際交流協会との連携も生まれた。外国人に限らず社会的に弱い人に情報を届けるのは難しく、行政情報等もホームページに多言語で載せるだけでは伝わらないのではないか。支援者も被災者になるので、外部団体との効果的な連携や地域の日本語教室の存在は本当に大事だと思う。」との報告がありました。

研修会で活動を報告する
大星三千代さんと櫻井佑樹さん

特集

能登半島地震の経験から学ぶ 災害時の外国人支援について

今後の対応

今回、改めて浮き彫りになったことは、「災害時における外国人支援」は、災害が発生してから始まるものではないということです。

まず、多言語化された情報がどこからどのようにして出されるのか、外国人住民に事前に周知し入手できるようにしておく必要があります。

出身国・地域によって、災害の体験や予備知識に違いがあるため、防災訓練や研修を地域の人たちと一緒に行い、いざという時に外国人住民自ら、周りの人と助け合い避難できるように準備しておくことが重要です。

さらに、避難生活で必要な情報は、地域や避難所ごとに出されるため、一緒にいる日本人から伝わり理解されていくことが多いと思われることから、普段から、文化・スポーツなど様々な交流イベントを通じて外国人住民と日本人住民がコミュニケーションの取りやすい状況を築いておくことも有効です。

また、地域の日本語教室は、日本語学習の場であるだけでなく、外国人住民に支援や情報を届け、彼らから情報を得る場にもなり、支援の拠り所や外国人のセーフティネットとして、多面的で重要な役割を果たすことが、今回の能登地震で再確認されました。

防災や災害時支援の取り組みは、特別で堅苦しいものと考えがちですが、日本語教室に代表される日々の交流の積み重ねこそが、最も効果的な取り組みかもしれません。

災害時外国人サポーター募集

大きな災害が起きた時、日本語の理解が難しい外国人に安心を届けるボランティアを募集しています！

詳細・申込みはこちらから

https://www.kpic.or.jp/saigai/appli

第1回 外国人住民 生活相談員 意見交換会 報告（令和6年8月29日）

府内の外国人住民の生活相談に携わる支援者同士の連携により、より良い相談支援が行えるよう、行政・国際交流協会職員、日本語ボランティア等を対象に意見交換会を開催しました。

各地域の外国人住民の現状や相談対応の概要について共有し、対応が難しい場合の解決策を話し合いました。例えば、就職先を探すのが難しい、医療通訳を探すのに苦労している等の困りごとが出されました。

対応としては、関係機関の紹介に加え、イスラム教徒への女医情報など地域医療情報の提供や、多言語対応が整った隣接地域の病院利用事例などが報告されました。また、「傾聴や心理的距離の取り方など、カウンセリングスキルを学ぶ機会も必要」との意見が挙がりました。

今後も、支援者同士の顔の見える関係づくりを通して、課題の共有や解決に向けた取り組みを協力しながら行っていく予定です。

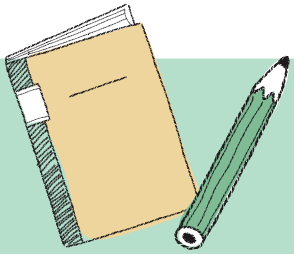
京都府多言語生活相談窓口

府内の外国人住民の**母国語の95%以上をカバー**

近所の外国人が困っているようだが、言葉が通じず何をしてよいのかわからない、外国人から相談をされるが、どこに聞けばいいかわからない等、なんでもご相談ください。

詳細はこちらから

www.kpic.or.jp/soudan/tagengo.html



所属のない外国につながりをもつ子どもの学びの場と夜間中学校の役割

研修会報告（令和6年8月28日）

夜間中学校は、義務教育を修了していない方や、不登校など様々な理由から学校に通えなかった方に学びの機会を提供する学校です。近年、増加傾向にある10代後半で来日する子どもたち（※1）の学びの場としても注目されています。文部科学省は、各都道府県・指定都市に少なくとも1校の夜間中学校を設置するよう促しており、全国で広がりを見せています。

今回の研修会は、京都府に夜間中学校が設置されていない現状を踏まえ（令和8年度には近畿で唯一夜間中学校がない地域となる見込みです）、中学校にも高校にも通っていない、日本語未習得の子どもたちの学びの機会をどのように確保するかという課題意識から、城陽市国際交流協会との共催で本研修会を企画しました。府内の教育・行政関係者、地域の支援者、議員など約20名が参加し、夜間中学校の現状や取り組みとその歴史、国の施策や全国の設置状況（※2）等について学び、多様な背景を持つ子どもたちが安心して学べる環境づくりの必要性を再認識しました。

今後も、外国人支援団体や関係機関と連携し、情報交換や子どもたちの現状を知っていただくための取り組みを進めていく予定です

（※1）詳細は、バックナンバー100号をご覧ください。
https://www.kpic.or.jp/about/news.html

（※2）文部科学省　夜間中学の設置・検討
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/yakan/index_00003.htm

CIRの紹介

ギットン・アドリアン
パリ出身、大学で演劇を専攻、
日本の要素を取り入れた演劇にも携わる
2024年8月から京都府国際センターで勤務

Q 13年間、演劇に携わった後、国際交流の分野へ転身したきっかけは何ですか？

A．高校生の頃から、演劇と同じくらい国際関係の仕事にも興味がありました。具体的なきっかけとなったのは、2023年に日本を訪れたことです。和食をテーマにした新たな舞台を作るための取材で、日本の穏やかで平和な雰囲気に深く感銘を受けました。
その後、パリに戻り、緊張感が漂う環境にショックを受けました。演劇の仕事は不安定な面もあり、一気に緊張と不安の多い世界に戻ったような気がしました。30歳という人生の節目で、今までと違う経験をしてみたいという思いと、日本語を少し話せることもあり、新たな道を選びました。

Q 日本人の作品で感銘を受けた人はいますか？

A．三島由紀夫です。特に『豊饒の海』には心を動かされました。21歳の時にフランス語で読んだのですが、今でも心に残っているフレーズがあります。例えば、「自分を知ることが最も重要であり、死を恐れることは無駄だ」や「美しさは常に死にひそんでいる」という言葉です。必ずしも納得できるわけではありませんが、読むたびに自分を見つめ直すきっかけになります。
また、この作品の「生まれ変わり」という概念を通して、命や死について深く考えさせられました。戦後の日本や仏教、神道についても多く学ぶことができ、美しい文体にも魅了されています。

Q 京都府国際センターでCIRとしてどのようなプロジェクトや活動を計画していますか？

A．着任して3ヶ月ですが、現在の主な活動は国際交流イベントです。私は食べ物が大好きで、異文化の食習慣に関するイベントを開催したいと考えています。
また、演劇の経験を活かして、いつか国際劇団を創設できたら非常に面白いと感じています。フランスでは、様々な言語を話す避難民向けに演劇ワークショップを行ったことがあります。その経験はとても感動的で、演劇を通じて国際交流を促進したいという思いが一層強くなりました。

トゥールーズの街角で

府民交流フェスタでPR中

多文化京都CIRネットワーク 活動報告
https://tabunkakyoto.wordpress.com

JICA京都デスクの取り組み

こんにちは！JICA京都デスクの西川です。
京都デスクでは、開発途上国の様子やJICAの活動を知ってもらうために、いろいろなイベントや講座に出向いています。その一部をご紹介します。

● 丹後万博でのブース出展

2024年10月27日、京丹後市の高校生が企画・運営するSDGsの祭典「丹後万博2024」に出展し、約120名の方と交流しました。

大阪・関西万博に向けて展開している「世界のあいさつ」クイズラリーを、峰山高校の生徒とJICA留学生が協力して運営しました。ブースでは、インド、エジプト、パラグアイ、東ティモール4ヵ国のあいさつや食べ物、民族衣装、JICA海外協力隊の活動などが載っている国の情報ポスターを展示し、開発途上国について紹介しました。また、エジプトや東ティモールの留学生は、来場者と現地語でのあいさつを交わし、交流を行いました。高校生も英語を駆使して留学生へ説明したり、参加者からの質問を通訳するなど積極的に関わっていました。参加者からは、「（インドの）サモサを食べたことあるよ」や「ロシアのあいさつの言葉を知っているよ」など、会話が広がる場面もありました。

これからも様々なイベントを通じて、国際協力の魅力をお伝えしたいと考えています。

笑顔で来場者を迎えるJICA留学生（左・右）と高校生ボランティア(中央)

アフリカ布の模様で彩られたブース

JICA京都デスクでは他にも、国際理解教育／開発教育、キャリア教育、SDGs関連の授業で、出前講座を行っています。

出前講座についてはこちらで詳しくご案内しています。

https://www.jica.go.jp/cooperation/see/delivery/index.html

センターからのお知らせ

国際交流カフェ　世界にはそんな発酵食品があるの？！

2025年1月25日（土）13:30〜15:30　場 所：京都テルサ 東館3階 D会議室
内 容：発酵食品をテーマにして世界の食文化について学ぼう！
対 象：英語または日本語が可能な方（日本人20人、外国人20人）　参加料：500円
詳細・申込み：https://www.kpic.or.jp/soudan/koryuin/kouza

〜賛助会員を募集しています〜

当センターが実施する様々な地域国際化事業や団体運営の財源に充てるため、趣旨にご賛同いただける皆さまを対象に賛助会員を募集しています。

【会　　費】**個人会員／年額　1口　3,000円**
団体会員／年額　1口　10,000円

【特　　典】・センター情報誌など定期刊行物の送付
・当センター主催の各種講座等への優先参加
・当センター内の有料スペースを会員料金で利用可能
・他団体との提携による会員特典

入会方法など詳しいことはHPをご覧ください。
www.kpic.or.jp/about/sanjo.html

パスポート写真撮影のご案内

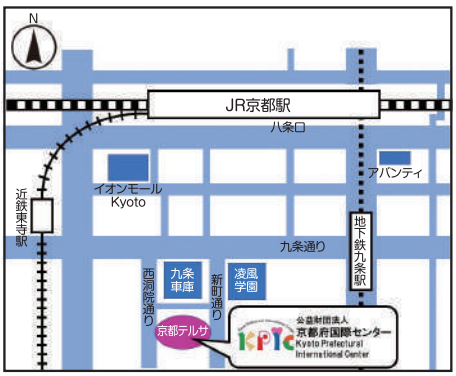
パスポートの規格に合った写真を責任を持って撮影します。

【場　　所】京都駅ビル8階
（京都府旅券事務所の隣に併設）

【営業時間】月曜日〜金曜日　9:00〜16:30

【撮影料金(税込)】
2枚 1,800円／4枚 2,300円／6枚 2,800円

【お問い合わせ】
TEL 075-342-5002



公益財団法人京都府国際センター

〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町70 京都テルサ東館3階

Tel：075-681-2500

Fax：075-681-2508　E-mail: main@kpic.or.jp
www.kpic.or.jp
facebook www.facebook.com/kpic.kyoto
開館時間／午前10時〜午後6時
休館日／火曜日、祝日、年末年始（12/29 〜 1/3）

公益財団法人京都府国際センター NEWS Winter 2024 冬号103号
編集・発行／公益財団法人 京都府国際センター　Kyoto Prefectural International Center

PRINTED WITH SOY INK